



☆これまでの振り返り

女人禁制の起源

- ・「穢れ」の思想
神道の「穢れ思想」では「死」「血」「出産」をそれぞれ「死穢(=黒不浄)」「血穢(=赤不浄)」「産穢(=白不浄)」という穢れとみなし、忌避する。

- ・古来より伝わる仏教の「女人五障説」「变成男子(へんじょうなんし)説」
室町時代に伝わった「血盆教」の影響

大峰山での論争

- ・大峰山寺を運営する地元寺院vs信徒
- ・信徒が高齢化し後継者も育っていないため、女性信徒を募りたい
新たな信徒が生まれる期待
- ・女人禁制は信仰のためであり女性差別ではない
- ・女人開放をしたら行楽地と変わらなくなってしまう

⇒女人禁制を解除した高野山の例から、解決策を考える

高野山の場合

・女人禁制の慣習には女性は男子よりも前世からの因縁で罪業が深い
ため(女人五障説)聖域である高野山上に立ち入ることは禁じられるという**仏教の世界観**と、女性は月水の穢れがあり、結界内には入れないという**日本古来の穢れ観念の仏教化**という二つの要素が融合している。(高野町史より)

・大門から奥の院までの高野山上が**僧侶とそれを支える男性のみ**で構成された、いわゆる「女人禁制」の慣習を守る特殊な社会であった

⇒いまや、住民が家族を形成し子どもたちが学校へ通う、高野村大字高野山という地域社会へと変貌

○1872年 明治政府によって解禁
「神社仏閣ノ地ニテ女人結界ノ場所所有之候処自今被廢止候条、登山参詣等可為勝手事」太政官布告98号より

○反発する寺側
女性の連泊を阻止するため試行錯誤、「山規」の改正

○風紀が乱れ、山上が世俗化
参拝者の増加、山火事による定住者の増加により取り締まりきれず女人禁制が形骸化

○1906年 山規改正案
女人禁制に終止符

高野山上での「女人禁制の解除過程」は単に参拝における女性登山解禁だけの問題ではなく、山上においての女性が居住する家族形成とその定着のプロセスであった。
⇒伝統に固執せず、柔軟に対応した!

☆逆転の発想をとった沖ノ島の例 (朝日新聞デジタルより)

○島全体が宗像大社の神領となっている沖ノ島
一般人の立ち入りも禁じられているが、年に一度男性のみ許される

○沖ノ島を世界遺産に登録しようという動きに、ヒンズー教徒団が反発

○逆転の発想をとり、男性の入島も拒否
現地大祭への一般客参加を取りやめる

○観光地化されて、神宿る島が汚れることが防がれた

⇒大峰山の問題に応用したい

まとめ

- 女人禁制は、古代から続く伝統である
- 時代の流れや、住民たちへの配慮のため解禁されていった。
- 後継者不足やジェンダー平等の時代を考慮すると、伝統を貫き続けることへの違和感がある
- 大峰山は、行楽地のようにしてしまうのを避けた

解決策案

- 男性の立ち入りも禁じる⇒男尊女卑の点を解決
- 男女共、信徒のみを立ち入り可にする⇒行楽地化を避けられる

引用文献：
比較家族史研究 (2017) 「女人禁制の解除過程」26-42頁
北海道教育大学 (2008) 「相模における「女人禁制の伝統」について」第59巻1号
朝日新聞DIGITAL(2017) 「沖ノ島、一般の上陸全面禁止へ 現地大祭を中止」
<https://www.asahi.com/articles/ASK7G4VY2K7G1IPE01M.html> (2018年5月17日閲覧)